

とよなか国際交流センターおしらせ

VOL.83 とよなか国際交流センター広報誌 2016年2月



「春が待ち遠しいです」

菅波 静香(大阪府立桜塚高校2年生)

とよなか国際交流センターからのおしらせピックアップ

問合・申込 とよなか国際交流協会(指定管理者) ☎06-6843-4343 (水曜、年末年始を除く毎日、9:00~17:00)

2/12(金) 13:30~15:30 外国人のための確定申告相談会

内容: 税理士による税金の個別相談会。通訳あり(英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語、ネパール語)

定員: 外国人6人(要申込、先着順)
1人20分まで。



2/13(土) 13:00~15:00 外国人のための茶道教室~お茶を通して日本文化を楽しむ

内容: お茶の所作を学び、自分でお茶をたてて飲む(お茶菓子付き)。

定員: 外国人、6人(要申込、先着順)
参加費: 300円

2/14(日) 14:00~16:00 春期ホストファミリーボランティア登録説明会

内容: 留学生と交流するホストファミリー事業(家庭宿泊なし)の説明、経験者や留学生との懇談ほか。

定員: 40人(要申込、先着順)
保育: 2月9日(火)までに要申込

多文化子ども保育「にこにこ」(金曜日) ボランティア大募集中!!

毎週金曜日(10時半~12時)に実施している多文化子ども保育「にこにこ」で一緒に活動してくれるボランティアを大募集中です! 保育士資格をお持ちで、外国のルーツを持つ乳幼児の居場所づくりに関心の有る方、事務局(担当: 大庭、山本)までお気軽にお問合せ下さい。(見学も可)

3/6(日)
13:00~20:00

外国にルーツをもつ若者主催の
イベント『庶民派室内フェス SH
O-MING-HA!!!』

とよなか国際交流センターを拠点に活動している若者たちが企画・運営する、ルーツやアイデンティティ、文化にフォーカスしたイベントです。外国にルーツをもつ若者たちを中心に、自身のルーツやアイデンティティを確かめ、地域の方々との交流や新たな若者たちと“つながる事”をねらいとしています。レトロな雰囲気の漂う素敵な会場で、一緒に食べたり、物づくりをしたり、歌ったり、楽しいひと時をすごしませんか。



日時：2016年3月6日(日)

【一部】(どなたでもどうぞ) 13:00~16:00

【二部】(高校生以上対象) 17:00~20:00

場所：ピアサロン(豊中市中桜塚2-27-8 桜塚ショッピングセンター2階)

内容：出し物・出店、ラジオの公開録音、ダンス・歌の発表、みんなで創るARTオブジェ、活動紹介コーナーなど

参加費：前売り500円(ドリンク、お菓子もしくはおつまみ付)、当日600円

※前売り券は、とよなか国際交流協会(とよなか国際交流センター)窓口にてより販売(詳しくは協会ホームページにて告知します)

ご報告

第8回市民セミナー「ぼくと沖縄と みんな」 を実施しました!

1月23日(土)に実施した今回の市民セミナーは、とよなか国際交流協会の多文化子どもエンパワメント・メディアプロジェクトで活動する「てーげ一部」が自主製作したDVD『ぼくと沖縄と みんな』の上映会でした。映像は、てーげ一部の黒島トーマス友基さん(以下、トーマス)の過去やルーツを中心に、妻と子どもを含め9人の仲間が同行する沖縄への旅物語でした。

トーマスは自身がアメラジアン(アメリカ人祖父と日本人祖母を持つ)であること、「ハーフ・あいのこ」と呼ばれる自分を見つめるために、高校卒業後に沖縄へ旅立ち、そこで過ごした日々やその沖縄と決別した想いをふり返りながら、自分を語ってくれました。中でも「戦後、大阪にも米軍基地がたくさんあったけど、そのことをほとんどの人が知らないし、今やすっかり忘れられている。現在、取り沙汰されている沖縄も70年経てば、同じように忘れられるんじゃないだろうか」と大阪の基地とともに大阪のアメラジアン、そしてトーマスのような存在を忘れ去った過去について、参加者に鋭く問いかける場面がありました。

「トーマスさんの中での引き裂かれるような思い、矛盾、しんどさの正体は何だったのかな…と考えさせられた」「映像を観て心の中にモヤモヤしたものが残っています。自分と重なった部分や言葉にできない気持ち悪さからくるものだと思います」など、トーマスを通して、日本社会のあり様やルーツについて深く考えさせられるセミナーになりました。

(写真は映像より：上段左・トーマスさん/下段・基地前に語る)



各地より

「少しだけ北の国から～ふくしま@辻より」

協会事業(哲学カフェ、プロジェクト“さんかふえ”等)に参加していた辻明典さんが、2013年度より故郷である福島県南相馬市に戻り、教員をしています。辻さんからの福島からの便りをどうぞ。

「放射能のなかで暮らすこと」

〈放射能のなかで暮らす〉とはどういうことなのでしょう。もちろん、ひとりひとり、放射能についての考え方は異なるでしょう。ですからここに書かれたのは、僕から見た一つの〈捉え方〉です。

道を歩くと、ところどころに低線量の放射性物質がある。ちょっと足を伸ばせば、放射線量が高い地域に入ってしまう。無害なところから放射線量の高いところへと、簡単に移動することができます。このような空間のなかで暮らすことを考えてみてください。二つの〈暮らし方〉が見えてきます。

一つ目。それは、〈放射能に警戒をしつつ暮らす〉ということ。例えばそれは、放射線量が高い地域には長居をしないようにすること。あまり放射線にさらされないように、つとめながら暮らすこと。僕は、放射線量が高い地域を移動するとき、少しだ

け緊張します。あまり長い時間、ここにはいない方がいいのではないかと感じてしまいます。自動車で放射線量が高い地域を通るときは、すすんで窓を開ける気にはなりません。風が放射能を含んでいるような気がして、ちょっと気持ち悪いのです。もちろん、どうしても換気が必要なときに、窓を開けることもあります。

二つ目。それは、放射能を〈とりあえずは気にしないこと〉にして、〈やりすごしながら暮らす〉こと。忙しく過ごしていれば、一時的にかもしれませんが、放射能のことをあまり気にせずに暮らすこともできます。低線量被ばくについては、まだまだわからないこともたくさんあるでしょう。もしかしたら、体調を崩すことと引き換えになるかもしれません。でも、放射能を〈とりあえずは気にしないこと〉にして、〈やりすごしながら暮らす〉ことにすれば、原発事故前と〈同じような日常〉を取り戻すこともできかもしれないと、期待す

ることはできるのです。

この二つの〈暮らし方〉を見つめてみましょう。二つの〈暮らし方〉のあいだから、ある緊張関係が見えてきます。それは、対立しているけれども、どちらも無視することのできないという、そんな緊張関係です。

放射能は気になる。けれど、元の生活を取り戻したい。

放射能への警戒は、怠らないにこしたことはありません。でも、いつも気を張り続けていられるほど、僕たちは強くない。だから、放射能を〈とりあえずは気にしないこと〉にしたくもなる。わかってはいるのだけれど、忘れたことにしたい。

なかなか苦しい暮らしです。こういう暮らしを生み出してしまうのですから、やはり原発事故は起こしてはいけないと思うのです。

3/11(金)
14:00~16:00

大規模災害時における 外国人支援セミナー

ご報告

「国際交流協会ネットワークおおさか」 研修会の報告

大規模災害が発生した際に、外国人市民は言葉や文化のちがいで、必要な情報が得られずに適切な支援が受けられない場合が想定されます。今回のセミナーでは、災害時に確実に外国人支援を行うため、市民、市民団体関係機関、行政などの連携のあり方やそれぞれに何ができるかを考えます。ぜひご参加ください。

【日時】2016年3月11日(金) 14時~16時

【場所】とよなか国際交流センター

【内容】①豊中市における災害時の外国人支援の現状について(豊中市危機管理課職員)

②講演「災害時における外国人支援の現状と課題」

講師：時光さん(NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会事務局)

③ワークショップ

【定員】80人(要申込・無料)

【共催】豊中市、(公財)とよなか国際交流協会、大阪府国際交流財団

【申込・問合せ先】とよなか国際交流協会 Tel.06-6843-4343

当協会も参加する同ネットワークは大阪府内の国際交流協会のネットワークで、構成する国際交流協会をはじめ、関係団体および行政機関と共に、お互いの情報交換と研修会を重ねています。

今回は滋賀県草津市から機能別消防団員の中国籍の方々、そして防災専門監の岩佐真實さん、神奈川県川崎市からは「移住女性のためのエンパワメントセンター・カラカサン」共同代表の山岸素子さんを講師に迎え、両地域での外国人当事者団体の成り立ちや活動報告をしていただきました。岩佐さんは「草津市に住んでいる外国人が、その地域社会の役割を担うのはごく当たり前のこととして、外国人市民による機能別消防団員(現在9名)を組織した」と語られ、団員の方は「機能別消防団に加わって活動することはとても大切なことで、これからは頑張っていきたい」と語ってくれました。山岸さんは「カラカサン」の趣旨や活動内容を報告される中で、外国人を支援する法や制度がない日本社会の中で、外国人がエンパワメントされるためには、①当事者コミュニティを創ること、②支援するネットワークを形成すること、③法制度を作り、社会を変革していく必要があると熱く語られました。その後、参加者でグループに分かれて、外国人コミュニティ活動の情報交換や今後のコミュニティ創生への課題について意見交換をしました。参加者からは、「外国人当事者の社会参画について、真剣に考えることができた」や「支援される側とする側を固定的に考えるのではなく、市民として共に社会を創っていく関係づくりが必要であると感じた」などの感想が寄せられました。



なんぢゃ・カンチャ・言わせてもらえば(第83回)

「2016年1月6日のソウルで」

皇甫康子(ふぁんぼ・かんぢゃ)

年初は久々にソウルを訪問しました。毎年、年末年始ごろには漢江が凍ります。数年前のことですが、帰国した教え子と一緒に、初水をバリバリ割りながら進む遊覧船に乗り、初体験だったので大喜びしました。今年は、時折冷たい風が吹く暖かいソウルでした。久々の友人たちと安国駅近くの韓方伝統茶のカフェ「ティーセラピー」でおしゃべりしていると、それぞれが選んだお茶が出てきました。「元気の出るお茶」「風邪に効くお茶」「消化を助けるお茶」「疲れ眼に効くお茶」「冷え性を改善するお茶」「ストレスを解消するお茶」と、どれも飲みたくなるお茶です。少しずつ分け合い、好きな味探して盛り上がったのですが、一番人気だったのが韓方薬のお茶でした。独特の香りを嗅ぐだけで、疲れが癒されます。苦味、甘味が程よく調和し、口に含むと何ともいえない滋味が広がります。この豊かで深い精神的な味わいは、アジアの食文化、全てに通じるのではないかと思います。

お茶のお土産を抱え、近くの美味しいパン屋さんにも寄りました。結構な値段でしたが、天然酵母で味は最高です。二階のカフェには、知人の女性画家の作品が掛けてあり、素敵な雰囲気です。パンを食べながら、みんなで夜の仁寺洞をつきり、劇場へ向かいました。今回は「サ・チュム」と「ジャンプ」を見ることにしていました。WiFiの力を借りても、迷ってしま

ました。

二つとも、その舞台の素晴らしさは言い表せません。訓練された肉体からほとばしるエネルギーと、知性を感じる演技。言葉がわからなくても、パフォーマンスのすごさで楽しめ、観客も一緒に舞台を盛り上げます。心地よい高揚感のまま、ホテルに戻りました。

翌日は、国立中央博物館に行きました。見学は無料で、指定の時間に行くと日本語を話す学芸員さんが1時間ほど館内を案内してくれます。新羅の金冠の美しさ、百済の金細工の繊細さに眼を奪われ、王の棺から出た装飾品や人形、壺などから当時の生活を推察していきます。最後は白磁と青磁の話になり、植民地支配のときに収奪されたり、壊されたりした文化遺産の話で締められました。日本の文化にも造詣が深い金さんの考察は、なるほどと頷く話ばかりでした。冬休みで、あちらこちらで、子どもたちが説明を聞き、仏像などの写生をしています。忙しい母親たちが先生を雇い、部屋でゲームばかりしている子どもを外に出して、学習させているということでした。子どもの頃から面白い歴史の話の聞くと、きっと社会の仕組みや状況に興味を持つ大人に育つことでしょう。ソウル市内のどこに行っても、公立の博物館は無料なのがうらやましいです。

旅の最後の日、市場に行くことにしました。ホテルの近くにある、広蔵市場で美

しい布団を買い、中部市場では、スルメやお餅を買いました。冷えてきたので、地下商店街に入ると、いつも立ち寄り手作りのお店が並んでいます。木で作ったスプーン(スプーンとお箸)や布で作った可愛いブローチ、1920年から50年の朝鮮戦争の頃までは、一般的に履かれていたコムシン(ゴムの靴)も買いました。友人が作ったヌビのマフラーを見せると、「すごいじゃないの」と、お店のおばさんたちが褒めてくれます。のどかな旅の締めくくりになるはずでしたが、昼食を食べていると、「北朝鮮で人工地震」という緊急報道が流れました。食堂にいる人たちは皆、ニュースにくぎ付けです。別行動をした友人たちは、光化門・興礼門の広場で、朝鮮時代の守門軍の交代儀式を再現した、「王宮守門将交代儀式」を観て感動したが、近くの日本大使館前にたくさん人が集まっていたと言います。水曜デモでした。元「慰安婦」だった女性たちの気持ち尊重されず、政府間の決着が行われようとしていることに、若い人たちが中心になって、抗議の声を上げているのです。

植民地統治の清算はすつきりせず、北朝鮮の核実験という緊張感の中で、2016年がスタートしました。二度と戦争を起こさないために、どのような状況になっても対話を続けていく、理性と忍耐を身に付けていきたいと思っています。

とよなか国際交流センターの事業について

定例事業(以下すべて参加費は無料です)

国際交流に関する情報の収集および提供事業

センター内の「ふれあい交流サロン」にて、子ども、おとな向けの書籍をお借りいただけます(多言語絵本もあります)。また、様々な媒体で定期的に日本語、多言語で情報発信を行っています。

国際理解推進事業

子ども、おとなを対象とした多文化共生・国際理解の勉強会を随時行っています。「おまつり地球一周クラブ」「市民セミナー」「世界を食べよう」「多文化・多言語セミナー」等

在住外国人に対する支援事業

「子ども母語」 第2・4日曜日10:00~12:00

・母語学習(中国語・スペイン語・ポルトガル語・インドネシア語)を通じて仲間づくり、居場所づくりをしています。幼児・小学生・中学生・高校生が参加しています。スタッフも外国にルーツをもつ大学生です。

「学習支援サンプライス」日曜日13:00~15:00※第1日曜除く

・日本語と学習支援の活動を通じて子どもたちの居場所づくりをしています。小学生・中学生・高校生が参加しています。ボランティアは大学生で、外国にルーツをもつ大学生ボランティアも多数参加しています。

「多文化保育にこここ」 木曜日13:30~15:30、金曜日10:30~12:00

・外国にルーツを持つ就学前の子どもたちが、さまざまな人と出会い、社会性を身につけるづくりをしています。

在住外国人に対する相談事業

夫婦関係DV、在留資格、行政手続き、医療、労働、教育、子育て、人間関係等、何でも相談できます。面談でも、電話でもOK。秘密厳守!

毎週金曜日11:00~16:00 (電話06-6843-4343)

対応言語:フィリピン語・タイ語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語・インドネシア語・ベトナム語・英語・ネパール語・ドイツ語・日本語(ポルトガル語は予約制です)

国際交流活動への住民の参加促進事業

留学生ホストファミリー事業ほか、日本語交流活動にも数多くの市民がボランティアとして参加しています。

日本語交流活動

「もっともっとつかえるにほんご」 月曜日10:00~12:00
 「とよなかにほんご・木ひる」 木曜日13:30~15:30(保育活動あり)
 「とよなかにほんご・金あさ」 金曜日10:30~12:00(保育活動あり)
 「にちようがちゃがちゃだん」 日曜日10:00~12:00※第1日曜除く

地域の外国人とボランティアが出会い、日本語交流を通じて生活に必要な日本語を学び、豊かな人間関係を築く場をつくっています。

「おかまち・おやこでにほんご」(場所:岡町図書館)
 「しょうない・おやこでにほんご」(場所:庄内図書館)
 「せんり・おやこでにほんご」(場所:千里図書館)
 火曜日10:00~12:00

乳幼児を抱えて家にこもりがちな外国人女性が子どもを連れて安心して集い、交流・情報交換ができるママ友づくりの場を図書館の協力のもとで実施しています。運営ボランティアも子育て中の女性です。

・・・その他、市民参加型のイベントや人権や多文化共生に関する講座、対話の場なども実施しています。また、ボランティアについてのお問合せや国際交流団体の運営相談にも随時対応しております。お気軽にお問合せ下さい。

施設管理に関する業務:貸室について

★駅前で便利!★ 会議やイベントにぜひご利用下さい。

センター貸室使用申込み…受付時間:開館日の午前9時から午後5時まで
 会議室、料理室、音楽・健康づくりルーム、和室、プレイルーム、ギャラリーを初めてご使用になる場合は、事前の登録が必要になりますので、お問合せ下さい。

とよなか国際交流センター貸室使用料金表

部屋名	広さ (m ²)	定員 (人)	料金 (円)				設備
			午前 9:00~12:00	午後 13:00~17:00	夜間 18:00~21:30	全日 9:00~21:30	
会議室1	41	18	520 2,600	720 3,600	640 3,200	1,880 9,400	ホワイトボード(小)
会議室2A	34	21	480 2,400	600 3,000	520 2,600	1,600 8,000	
会議室2B	65	48	840 4,200	1,120 5,600	1,000 5,000	2,960 14,800	
会議室2C	33	21	440 2,200	560 2,800	520 2,600	1,520 7,600	ホワイトボード(2ABC2BCを一室として使用する場合は不可)
会議室3	55	18	520 2,600	720 3,600	640 3,200	1,880 9,400	ホワイトボード(大)
会議室4	63	30	840 4,200	1,080 5,400	960 4,800	2,880 14,400	ホワイトボード(小)、流し台
会議室5	27	12	360 1,800	480 2,400	400 2,000	1,240 6,200	ホワイトボード(大)
和室	38	18	480 2,400	680 3,400	560 2,800	1,720 8,600	10畳
ギャラリー	18	-	240 1,200	320 1,600	280 1,400	840 4,200	壁画ガラスケース、ビクチャールール
プレイルーム1	57	20	880 4,400	1,160 5,800	1,040 5,200	3,080 15,400	子ども用トイレ
プレイルーム2A	43	15	680 3,400	880 4,400	760 3,800	2,320 11,600	子ども用トイレ、畳(一部)
プレイルーム2B	52	18	800 4,000	1,040 5,200	920 4,600	2,760 13,800	子ども用トイレ
音楽・健康づくりルーム	113	40	1,480 7,400	2,000 10,000	1,760 8,800	5,240 26,200	アンプライバリア(必要な調理の費用は各使用者負担)、ビデオ、カセット、CD、MD、マイク、壁面鏡、更衣室(ロッカー、洗面台)
料理室	90	30	1,720 8,600	1,720 8,600	1,560 7,800	5,000 25,000	調理台6台のうち昇降式調理台2個、準備室(ロッカー、洗面台、ホワイトボード)

備考 1. 2区分にわたって継続して使用する時の使用料は、それぞれの区分の料金の合計額とします
 2. 料理室の使用区分のみ、料理室内の記載時間とします
 3. 上段:国際交流目的で使用するときの料金(内容審査あり)、下段:その他の活動で使用するときの料金
 4. 使用時間には、準備、後片付けの時間を含まず(時間厳守)
 5. 鍵は時間の5分前からお渡しできます。その際「使用承認書兼領収証」を必ずご提示ください

◎国際交流の活動を応援します!◎

登録グループ制度についてのご案内

とよなか国際交流センターでは「登録グループ制度」を設置し、国際交流の活動に組織的かつ継続的に取り組む方々の自主的な活動推進のための支援を行っています。

登録グループへの支援内容(一部)
 ・国際交流目的で貸室を毎月2コマ(午前・午後・夜間のいずれか1室につき1コマ)まで無料で使用できます。
 ・センター内の掲示板で情報提供できます
 ・印刷機が無料で使用できます(紙は要持ち込み)

・センター内のロッカーが無料で利用できます。・・・など
 その他、登録グループになるための要件、登録後の役割等については「登録グループ制度要項」に詳細に記載しています。豊中市のウェブサイトからもダウンロードできますので、ご関心のある方はご覧下さい。https://www.city.toyonaka.osaka.jp/jinken_gakushu/kokusai/tourokuguru-pu.html
 もしくは、当センターの受付でも入手可能ですので、お問合せ下さい。

◎「登録グループ活動紹介」の冊子をセンター受付にて無料配布中です◎



～地域や学校での国際理解教育にお役立て下さい!～

各国の民族衣装などを貸出します!

豊中市の公的機関は貸出料無料! 詳細はHPもしくははお電話にてお問合せ下さい。

【お問合せ】 TEL 06-6843-4343 FAX 06-6843-4375

とよなか国際交流協会(指定管理者)

Facebook! ほぼ毎日更新中! 「公益財団法人とよなか国際交流協会」で検索!

開館時間: 午前9時~午後9時30分 / 業務受付時間: 午前9時~午後5時 休館日: 毎週水曜日、年末年始
 アクセス: 阪急宝塚線「豊中」駅から徒歩1分(阪急梅田駅から急行で11分)
 地下3階に有料駐車場有り(210台)、1階に有料駐輪場あり(自転車・バイク)

編集・発行 公益財団法人とよなか国際交流協会(とよなか国際交流センター指定管理者)
 〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1-1-601 とよなか国際交流センター
 E-mail: atoms@a.zaqq.jp http://www.a-atoms.info



◎アクセス: 阪急宝塚線「豊中」駅から徒歩1分